



【第8期】（令和3～4年） 板橋区地域自立支援協議会 障がい当事者部会

意見集



令和4年●月

この冊子は、板橋区地域自立支援協議会「障がい当事者部会」において、他の部会から、障がい当事者へ聞きたいことを募り、その質問に対して、障がい当事者部会の部会員が答えた**“声”**をまとめたものです。

障がい当事者部会では、障がい者の想いを社会へ広げ、障がいのある、ないに関わらず、すべての人がお互いを大切にし、支えあい、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会（共生社会）をめざしています。

そのために、障がい当事者部会ではこれからも当事者の**“声”**を発信し続けます。本紙が、みなさまにとって障がい者のことを少しでも知ってもらうきっかけとなれば幸いです。



1. 権利擁護（差別解消法について）



(1)障害者差別解消法が平成28年4月に施行されてから5年が経過したが、
地域において、合理的配慮はどの程度浸透してきたと感じますか？
また、地域において何か変化はありましたか？



聴覚障がい

東京オリンピック・パラリンピックを含め、テレビで手話通訳がつき、またワイプがつくことによって、多くの方に聴覚障がいをご理解いただいたと思う。興味を持っていただく機会が増えたらいい。



高次脳機能障がい

板橋区では失語症者向け意思疎通支援者の運用がまだなので進めていただきたい。また、私自身、高次脳機能障がいという言葉が一般常識になるよう活動しているが、まだまだ浸透していない。パラリンピックでも、高次脳機能障がいという言葉はチラリとも出てこなかった。



視覚障がい

駅構内のエレベータやホームドアの設置はある程度進捗した。また、駅周辺の放置自転車は減ってきたように思うが、**商店街等については、まだまだ自転車が歩く方向と直角に駐輪されており、とても歩きづらい。**



視覚障がい

大通りなど、反対側へ移動したい場合、横断歩道にエスコートゾーン※などがあると渡ることができる。



※エスコートゾーン…道路を横断する視覚障害者の安全性及び利便性を向上させるために横断歩道上に設置され、視覚障害者が横断時に横断方向の手がかりとする突起体の列のこと。（警視庁『エスコートゾーンの設置に関する指針の制定について（通達）』参照）



発達障がい

当事者が集まる会があり、**割と浸透してきたとの声が多かった。**合理的配慮については、お金がかからないような調整、との意見もあった。



知的障がい

選挙を控えている間近というところで、スムーズに投票できるようサポートしていただいていると、**知的障がいに配慮してくださっているという意見があった。**

1. 権利擁護（差別解消法について）



(2)身近に起こった出来事で、**差別や偏見などに関して、理不尽に感じることや困った体験**をされたことはありますか？ 体験された際、家族や知人、区や支援機関等に相談されましたか。



視覚障がい

コロナ禍の影響で、駅構内の移動時などに声をかけてもらえることが少なくなった。また、右腕につかまらせてもらえなくなった。
スポーツセンター内の移動においても、腕ではなく細い紙のヒモにつかまって歩かされ、とても歩きづらい。施設に直接申し入れしようと思ったが、できないまま今日に至っている。



視覚障がい

白杖歩行中、高校生が運転する自転車に接触し、白杖（折り畳み式）が折れたことがあった。弁償を要求すべきかとも考えたが、今後は気を付けるようにと告げて終わった。



視覚障がい

駅構内を白杖歩行中、走って電車に乗ろうとする歩行者に白杖が引っ掛かり折れてしまった。その人は「ごめん」と一言言って走り去ってしまった。



知的障がい

コロナ禍で、知的障がいは特に、紙への反応が強い方はマスクをつけられない。今もできない方が多い。今の時代はマスク無しでは施設に入れない。家族が同伴するか、あとは外に出かけなくなってしまう。本人たちが大変な思いをしていることを実感している。



2. 障がい児（支援策について）



(1)それぞれのお立場から、小児期の療育や保育、教育、医療などについて、あったら良いなと思う支援や、改善してほしい（ほしかった）支援はありますか？



肢体不自由

母親が相談するケースは多いと思うが、祖父や祖母、兄弟も含めて、家族全体への障がい者理解の啓発やサポート体制をどのようにするかが、安定して子育てしていくための糧になる。



肢体不自由

相談窓口など、次につながるためのヒントをいただけるかというところが大事。ここに来てあなたの質問には答えられません、では、路頭に迷う。次に何かつなげるために一緒になって必死に探していただければ、その思いがないと子育ては大変。



視覚障がい

眼科医は治療には熱心だが、生活や仕事のケアまで助言してくれる医師はまだ少ない。医療と区の福祉施設、支援団体の連携体制を整えることが急務であるとする。



知的障がい

他区では、個別の支援シートを活用して、就学前から就学後にかけて、必要な支援をなされているところもある中で、小1の壁など、親も子供もそれまでの環境が変わり、入学する際、すごく大変な思いをするというのが、未だに変わっていない。引っ掛かりなくというのは難しいと思うが、先生方と今まで支援してきた方たちがうまく引き継いでいけるように、支援シートを活用してほしいと思う。



2. 障がい児（支援策について）



(2) (障がいを持つ子の保護者や支援者の方がお答えください)

当事者ではなく保護者や支援者の支援として、あったら良いと思う支援や、既にあって今後も継続して欲しい支援はありますか？



知的障がい

中学部の方のお話。お子さんを常時支援していた方が亡くなり、ご家族が非常に困惑していた。特別支援学校の重度のお母さんたちはほんとに勉強している。しかし、そうじゃない方は、福祉サービスを使っていない方が多い。今までの支援者がいなくなったとき、とても困っているという状況がつい最近あった。福祉サービスが使われるように、もっとわかりやすく伝えていけたらなと思う。

3. 就労支援（情報源について）



(1)障がい福祉サービスの情報は、主にどこから入手していますか

例) 行政の窓口・広報紙・ホームページ、病院等の医療機関、相談支援事業所、家族・親族、友人・知人、インターネット検索



発達障がい

例示にある全て。特にインターネット検索が多い。



肢体不自由

行政の窓口、広報紙等。サービスによって、担当部署など



高次脳機能障がい

行政の窓口（障がい者福祉センター含む）、病院の医療相談、地域活動支援センター、就労継続支援B型などの通所事業所、高次脳機能障がいと難病のピアカウンセリング



視覚障がい

板橋区視覚障害者福祉協会、行政の窓口、認定NPO法人タートル



精神障がい

区ホームページ、いたばしこころの健康ガイドブック

3. 就労支援（就労支援機関について）



(2)障害者就業・生活支援センターについて、どの程度知っていますか。
また、期待することなどがあれば、ご意見等伺いたい。



各 委 員

- ①機関の名称・取組内容まで知っている・・・2名
- ②機関の名称は知っているが、取組内容までは知らない・・・3名
- ③全く知らなかった・・・0名



発達障がい

JHCの事業なので、精神障がい者のみが対象と思っていた。もっとPRしてみては。



高次脳機能障がい

治療を受けた病院によって、繋がった人と全く繋がらなかった人がいる。病院は100%存在を知っていて、必要な人に繋げるようになって欲しい。病院での研修とセンター側からのPRがもっともっと必要では？



視覚障がい

視覚障がい者の就労ノウハウについて、情報をしっかり修得して欲しい。

(3)就労について、悩んでいたことや不安だったことがあれば教えてください。



高次脳機能障がい

高次脳機能障がい者の場合、職場にもどってから「できなくなった」ことに気づく人が多く、配置が転換された後、結局は自己都合退社を余儀なくされてしまう人も少なからずいる。復職するときに、センターのサービスを当人と会社側双方に伝わるようになって欲しい。



視覚障がい

私は認定NPO法人タートルで、視覚障がい者の就労支援を行っています。視覚障がい者から相談があった場合には、タートルにつないでいただくと有効な助言ができると思います。



精神障がい

精神疾患は体調の波が大きい。就労できても、体調の悪いときは休むことが必要。

3. 就労支援（就労支援機関について）



(4)障がい者の就労に関して、年々、職場に定着する（離職しない）ための制度が充実したり、支援する機関の種類・数も増えてきたりしているが、さらに充実させてほしい、改善してほしいことがあれば伺いたい。



発達障がい

職場の上司が障がいの特性を理解していない場合も多い。特性を考慮せず、「仕事ができなくて、他の仲間に迷惑をかけている」と、一方的に当事者を責める例もよく聞く。弱い立場の障がい者は自分を守れない。しかし第三者に訴え、それを知られ職場にいらなくなるというリスクはとれない。したがって、ただ我慢することになる。不適格な人がそうした立場につかないなど、何かの仕組みが必要である。



高次脳機能障がい

高次脳機能障がい者の場合、定着の期間が長くなる。又、適性を見極めるのも難しいので、一社失敗しても繰り返し利用できるのが望ましい。



視覚障がい

的確なところにつなげる、ネットワークづくり、相談体制の構築が必須と考えています。



精神障がい

精神疾患を抱えて働く人を応援する企業が増えてほしい。

4. 相談支援（計画相談支援について）



(1)相談支援事業所の、あったら良いなと思う支援や、改善してほしい（ほしかった）支援について、ご意見等伺いたい。



発達障がい

相談に応じてくれる事業所が少ない。また、事業所の専門が高齢だったりする。当事者が高齢になったときは必要となるが、障がいの専門性も必要である。



肢体不自由

重度重複障がい者に対応できる事業所が増えてほしいと思っている。包括的な支援になっていくためにも、関係各所にスムーズにつなげていける相談支援になっていくように…と思う。



高次脳機能障がい

高次脳機能障がい者は障がい者初心者で、障がい福祉サービスの知識が極端に少ない。支援を受けるべき状態でも支援の存在自体を理解していない場合がある。相談支援事業所のほうから支援の「御用聞き」はできないものだろうか。手帳を新しく取得した人に対して、アウトリーチしてもらえればありがたい。



視覚障がい

相談支援事業所ではないかもしれないが、「障がい者福祉のしおり」を渡すときに、当事者に関連するサービスを明示してあげて欲しい。



精神障がい

障がい特性に応じた相談体制の充実を希望します。



精神障がい

精神疾患のセカンドオピニオンを受けられる医師を紹介してほしい。精神疾患は、薬剤適合していなくても、なかなか医師を変えられない。